

ビジネスゲーム「M-Cass」

学習方略テキスト

学習方略の重要性

勉強する前にまず「勉強法」をマスターする

「まず勉強法を確立することが合格の近道と身をもって知っています」
これは、「偏差値29の私が東大に合格した超独学勉強法」の著者である杉山奈津子さんの言葉です。

一般的には、勉強法の本を読むヒマがあつたら、参考書の1冊でも読んだ方がよいという固定観念がありますよね。ですが、偏差値29から東大合格を果たした杉山さんは「意外だったのが、大学生のとき、同級生にどうやって勉強していたかと聞くと、かなり多くの人が、まず勉強法の本を買ったと言っていたことです。こんなにもみんなが勉強法の本を買って、戦略を練ってから勉強していたとは！」とおっしゃっているのです。

このことは、逆に言えば、どうすれば合格点が取れるのか、戦略を練って学習したから東大という難関試験を突破できたともいえるのです。

このため、簿記1級試験や税理士試験、公認会計士試験といった難関資格試験に合格するためには、受験科目の勉強に入る前に、科学的で効果的な勉強方法をマスターしておくことから始める必要があるのです。

そこで、今回のセミナーでは、自己の学習方法を振り返っていただき、不合理な学習方法を取っていなかったか、その自己流の不合理な学習方法に終止していなかったか、科学的な効果的な学習方法には、どのような方法があるのかをみていきたいと思います。

1、はじめに～学習方略の重要性について

どうして同じ教材で、同じ講義を受けていて、合格する人と残念ながら不合格になってしまう人がでるのでしょうか。不合格になってしまった人の全員が不真面目、もしくは、能力がなかったからなのでしょう。それとも、他に何か原因があるのでしょうか。これは、私が長年、受験指導をしていて疑問に感じたことです。そして、その原因を探るべく、受講生の方々の情報を収集し分析したり、科学的な教育に関する方法を調べたりしました。その結果、「決して、不真面目でも、能力がないわけでもない」という結論に至ったのです。

当テキストは、効果的で効率的な学習方法を取り入れることの重要性を解説したものです。難関試験に短期で合格するためには、効率的で効果的な学習方法を身につけ、実践する必要があります。簿記1級や税理士・会計士といった難関試験では、おさえなければならない論点は膨大であり、その難易度は簿記検定試験に比べて格段にあがります。このため、簿記検定3級や2級の学習意識と学習方法では、太刀打ちできません。そこで、本冊子では、今までの学習意識と学習方法(学習方略)を変えることについての重要性を解説いたします。

これまでの、ご自身の学習方法を振り返りながら、気持ちを新たにするという姿勢で、ぜひ、お読み下さい。

2、自己の学習方法を振り返ってみましょう

科学的で効果的な学習方法のことを「学習方略」といいます。ですが、学習方略の内容に入る前に、以下の質問に答えていただき、ご自身の学習方法を振り返っていただきたいのです。ぜひ、ご自身の今までの学習方法を思い出しながら、以下の質問に答えてみてください。

Q1	それまでの学習方法を振り返り、自己流の学習方法をやめて、より効果的な方法を身につける努力をしていますか。	はい	いいえ
Q2	栄養・睡眠・疲労などが学習に及ぼす影響についても理解していますか。	はい	いいえ
Q3	テキストの読み方、ノートを取り方、記憶の仕方、忘却の防ぎ方、思考の進め方などについて科学的な根拠にもとづく上手な方法を取り入れるようにしていますか。	はい	いいえ
Q4	性格の違いがもたらす影響や、劣等感、スランプなどの問題に対処していますか。	はい	いいえ
Q5	机の位置、照明の仕方、温度などの物理的な環境の影響や友人、講師、家族との関係が及ぼす影響についての理解を深め、それらを勉強に生かす努力をしていますか。	はい	いいえ
Q6	勉強の計画の立て方、また計画を立てることの重要性を認識し、計画的かつ自主的に勉強する習慣を身につけていますか。	はい	いいえ
Q7	予習・復習の仕方、授業の上手な受け方を身につけるようにしていますか。	はい	いいえ
Q8	各教科の特徴とその勉強方法、不得意科目の勉強法を身につける努力をしていますか。	はい	いいえ

いかがでしたでしょうか。5つ以上について「はい」とお答えになった方は、効果的な学習方法ができているといえるでしょう。しかし、それ以下であれば、不合理な学習方法を実践している可能性があります。そのような方は、努力の割には成績が伸びない可能性があります。よって、短期合格の可能性を高めるためにも、ぜひ、当テキストを読んでいただき、効果的な学習方法を取り入れるようにしてください。

3、上記における効果的な学習方法(学習方略)の具体例

第1：それまでの学習方法を振り返り、自己流の学習方法をやめて、より効果的な方法を身につける努力をすること。

(1)いままでの学習方法を振り返ったことはありますか？

いままでの自己流の学習方法が本当に効果的なのか、検証したことはありますか。もし、万が一効果的でない自己流の学習方法を探っていた場合、努力の割には実力が伸びず、なかなか合格しないということにもなりかねません。一度、ご自身の学習方法を振り返ってみましょう。

【アメリカの高校生が探っていた学習方法】

1988年、オマリーという学者は、アメリカ在住の高校生で第二外国語を学習する者の学習方略を調べました。その結果、「反復」と「ノート取り」という暗記中心の方法が最も頻繁に用いられていることが分かったそうです。学習教材を効果的に使用する方法として、イメージ化、推論、キーワード法、分類、組み換えといった大きな学習効果を生む方法がありますが、これらの効果的な学習方法があまり用いられていないことが、この検証により分かったのです。以下のことについて、思い当たることはありませんか？

- ①ノートを綺麗にとっているが、ノートに書かれていることが思い出せない。
- ②何回も繰り返し問題を解くが、違う問題になると解けない。
- ③何度もやって覚えたはずなのに、忘れてしまう。
- ④とにかく、問題集を何度も解いて、計算式や解法を覚えようとしている。
- ⑤取引をイメージしたり、計算方法を図にし、その意味を考えたりするようなことはない。

(2)講座の受講生に対する学習方法についてのアンケートとその回答 ※有効回答でないものは集計から抜いています。

本校における会計士講座などの受講生に学習方法についてのアンケートを取りました。
その結果は以下のようになっています。※質問の対象者：会計士講座、税理士講座、簿記1級講座受講生

学習方法について質問内容	
1、学習ゴール(合格)について、具体的に文章化していますか？	している：6名(19%) していない：26名(81%)
2、学習計画について考えたり、計画表を作成したりしていますか？	している：14名(45%) していない：17名(55%)
3、テキストについて、章を読む前に、全体についてざっと目を通していますか？	している：14名(47%) していない：16名(53%)
4、テキストの内容を読んでいる時に、目次等で全体の位置付けを常に確認していますか？	している：9名(28%) していない：23名(72%)
5、テキストの内容を理解するために、自分で簡単な図や表を作ったりしていますか？	している：13名(41%) していない：19名(59%)
6、文章を読んでいて、意味の分からない部分に出会ったとき、自分で深く考えたり、調べたりしていますか？	している：22名(69%) していない：6名(31%)
7、ノートにまとめるとき、論点同士の関連性、全体の中の位置付けなどを意識してまとめていますか？	している：6名(22%) していない：21名(78%)
8、試験の出題傾向や出題パターン、科目の特徴などについて、自分で調べたり、研究したりしていますか？	している：7名(26%) していない：20名(74%)
9、学習していて、心配や不安になることはありますか。	ある：15名(58%) ときどきある：11名(42%)
10、学習仲間と教え合ったり、議論したりしていますか。	している：6名(22%) していない：21名(78%)

上記データから、合格者の共通点を探したところ、以下のような学習方法に関する質問に対し、「している」と回答していました。

- (1) 合格者の100%が実践していた学習方法
- ①文章を読んでいて、意味の分からない部分に出会ったとき、自分で深く考えたり、調べたりしている。
- ②ノートを取るとき、重要な点や要点を書き留めたり、自分の言葉で書き留めたりしている。
- (2) 合格者の75%が実践していた学習方法
- ①学習計画について考えたり、計画表を作成したりしている。
- ②学習時間を計画し、ある程度、有効に使えている。
- ③睡眠時間を十分に取っている。
- ④テキストについて、章を読む前に全体にざっと目を通している。
- ⑤学習で困ったとき、先生や仲間に相談している。

短期合格者は「していない」というネガティブ回答率が約4割を以下であることが分かっています。

ご自身が採っている学習方法と比較してみてください。同じテキストや問題集で学習し、講義を受けていても、合格者は、学習方法や学習視点、テキストや問題集の利用方法において、効果的な方法を取り入れているのです。

また、上記アンケートを集計し、追跡調査を行った結果、合格者と不合格者では以下のように学習方法について差があることが分かりました。

熊本校会計士講座学習相談会アンケート集計										2013年6月実施					2012年9月実施				
2012年9月15日実施										2013年6月実施					2012年9月実施				
合格者のための個別無料相談会・学習セミナー										合格者					不合格者				
選択肢										Aさん 1級・会計士					Bさん 1級 会計士				
受講講座										Cさん 1級 会計士					Dさん 1級 会計士				
1. 学習目標合格について、具体的に文章化していますか										Eさん 1級 会計士					Fさん 1級 会計士				
2. 学習計画(進め方)について考えたり作成したりしていますか										Gさん 1級 会計士					Hさん 1級 税理士・会計士				
3. 学習時間を計画し、有効に使えていますか										実施率					Iさん 1級				
4. 睡眠時間は十分にとっていますか										Jさん 1級					Kさん 1級				
5. テキストについて、章を読む前に全体にざっと目を通していますか										Lさん 1級					実施率				
6. テキストの内容を読んでいて、目次等で全体の位置づけを常に確認していますか										75%					25%				
7. テキストの内容を理解するために自分で簡単な図や表を作ったりしていますか										63%					50%				
8. 文章を読んでいて、意味の分からない部分に出会ったとき、自分で深く考えたり、調べたりしていますか										100%					50%				
9. ノートを取るとき、重要な点や要点を書き留めたり、自分の言葉で書き留めたりしていますか										100%					25%				
10. ノートにまとめるとき、論点同士の関連性、全体の中の位置づけなどを意識してまとめていますか										63%					0%				
11. 学習したことについて、それをあとで思い出すための方法を工夫していますか										63%					0%				
12. 試験の出題傾向や出題パターン、科目の特徴などについて、自分で調べたり、研究したりしていますか										75%					25%				
13. 学習していて、心配や不安に感じることがありますか										7%					73%				
14. 学習で困ったとき、先生や仲間に相談できたりしていますか										53%					40%				
15. 受験仲間と教え合ったり、議論したりしていますか										13%					33%				
ネガティブ回答率										22%					60%				

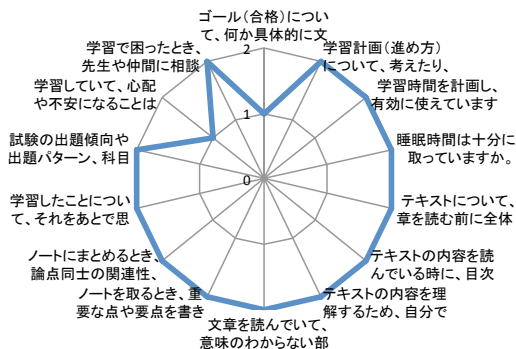
上記のアンケート結果をみていただくと、大きく左側が1級合格者、右側が不合格者です。特に色のついているネガティブ回答の割合をみてください。明らかに、合格者の方が色が少ないことがお分かりいただけるかと思います。つまり、合格者は合理的な学習方法を取り入れているのです。

なお余談ですが、アンケートに答えていただいたGさんは1級合格後に、税理士簿記論に合格、またHさんは1級合格後に税理士簿記論と財務諸表論の2科目同時合格を果たしています。

(3) 合格者からのデータで分かった！合格するための学習方略黄金比率

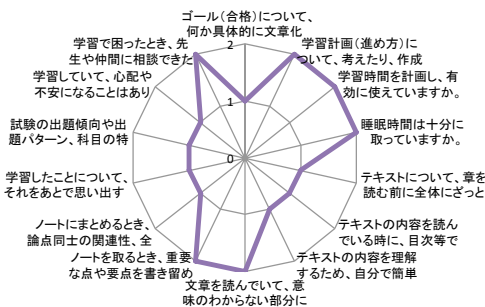
上記の学習方法に関するアンケートを「レーダーチャート」という表に置き換えると、合格者が取っている学習方法との違いが明確になりました。ぜひ、ご自身でも「どこかできていて」「どこができていないか」ということを比較しながらご覧ください。

熊本校 Aさん



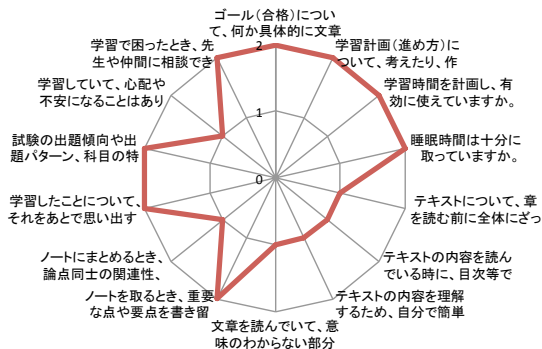
日商簿記1級試験合格
税理士 簿記論・財務諸表論2科目同時合格

Bさん



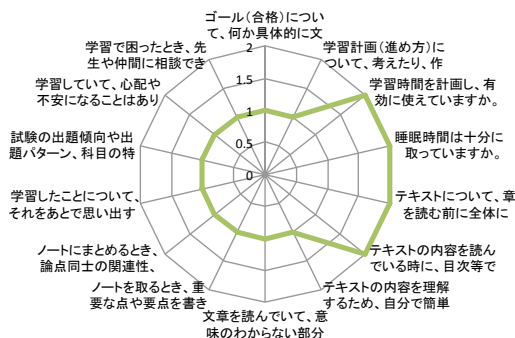
模試36点
商会13点 工原23点

Cさん



模試45点
商会14点 工原31点

Dさん



模試19点
商会4点 工原15点

改善した点(3点)ネガティブ回答率33%→18%へと改善
テキストの内容を読んでいる時に、目次等で全体の位置づけを常に確認していますか。
テキストについて、章を読む前に全体にざっと目を通していますか。
文章を読んでいて、意味のわからない部分に出会ったとき、自分で深く考えたり、調べたりしていますか。

Cさんは学習セミナー受講後に、学習方法を見直し、ネガティブ回答率が33%から18%に改善し、模試で45点(実質的合格可能性ライン)をとっています。



上記アンケートはネガティブ回答率が改善前の33%のときのもの

(3)「日商簿記1級試験の短期合格者(1回から2回で合格された方)が採っていた具体的学習方法」に関するアンケート内容とその結果」

こちらは日商簿記検定1級試験に短期で合格された方々に対してですが、具体的にどのような学習方法を採用していたのか、そのアンケートをとったところ、以下のような回答を得ることができました。

1、いつまでに勉強を終わらせるようにしましたか？

- ・何月までに何を終わらせる、という学習の計画や目安はつけていた
- ・1ヶ月に学習内容を1回転させていた
- ・問題集は直前1ヶ月までに少なくとも3回転、過去問も3回転するようにしていた
- ・苦手論点を優先的に終わらせるようにしていた
- ・問題集を何問消化するという形ではなく、論点ごとに消化する様に計画を立てていた

2、どのようなことを心掛けて学習していましたか？

- ・学習の目標を立てて、それを消すように学習を進めることを心掛けていた
- ・学習時間の記録を取り、自分の進み具合が分かるようにしていた
- ・集中力を保つため、3時間ごとに区切って勉強していた
- ・合格者の人に計算用紙の書き方を見せてもらい、真似をした
- ・合格した時のご褒美を用意するようにしていた

3、テキストやノートの使い方で工夫していたことはありますか？

- ・問題集から、分からない部分をテキストに入るという復習方法をとっていた
- ・ノートやメモなど、すべてテキストに集約するようにしていた
- ・テキストに書き込んだり、ノートに書き込むときは、自分なりの説明で書き込むようにしていた
- ・単語帳に問題や解答を書いていた

4、過去問集は利用していましたか？

- ・まだ完全に理解できていない段階から利用していた
- ・1回転目が終わってから利用し始めた
- ・過去問を研究する時間をとっていた
- ・過去問の解説のところに該当するテキストのページも書き込んでいた
- ・自分なりに過去問の解説を作っていた

これらのアンケートから、短期合格者は具体的に以下のようなことを日常の学習に取り入れているようです。

- ①学習の計画を立てている
- ②目標を立てたり、時間を区切ったり、といった学習の工夫がみられる
- ③テキストやノートの使い方にも工夫がみられる
- ④過去問を利用している

過去問は最後にやるものでしょ、という固定観念



上記の短期合格者に対するインタビューで、特に着目していただきたいのが「過去問の利用」についてです。短期合格者は、なんと過去問を早期に利用しているのです。このことについて、杉山奈津子さんはその著書で次のようなことを述べておられます。

「過去問は、絶対に受験勉強を始める前ににやっておくべきものです。なぜなら、志望校がどのような形式で出題してくるのか傾向を知ることが、受験勉強をして行くうえでの指針となり、効率がグンとアップするからです。やるといっても初めのうちは解いてみるというより、見てみるに近い作業になると思います。過去問は受験の直前にやるものと考え、最終的な腕試しの道具にしてしまうと、何の傾向も分からないまま勉強を始めることになります。そうしたら、どこを重点的にやるべきで、どこを軽く流すべきかの比重が分からず、全ての範囲を満遍なく勉強してしまうでしょう。」

つまり、受験する試験の出題傾向などを知ったうえで学習しないと、どこを重点的に勉強していいか分からず労力ばかりかかることになるということです。過去問は最後にやるものという固定観念はぜひ、捨てましょう。

(4)自分自身の学習方法を振り返る

ここでは、ちょっと立ち止まり、ご自身のこれまでの学習方法を振り返っていただきたいと思います。
簿記検定3級と2級の内容に関して、以下の質問に答えることができるでしょうか？ この質問に答えていただくことで、これまで「自分自身がどのような視点で学習をしていたのか」を認識していただくことができるはずです。
ぜひ、答えられるかどうか、考えてみてください。

質問 1 商業簿記についての質問です。
3級で学習した商品売買の仕訳の方法に、「三分法」と「分記法」がありました。両者は何が違うのでしょうか。また、同じ考え方による処理方法が認められている取引が他にもありました。その取引とはどのような取引でしたか？

質問1について(比較する視点で学習していたか、他の論点との関連性についても考えていたか)

商品売買取引は、商品を仕入れて、その商品をお客さんに販売する取引です。このような取引を簿記でどのように記録するかということで、簿記3級では「三分法」と「分記法」という方法を学習したかと思います。そして、この質問で問いたいことは、「それぞれの方法の仕訳を単に暗記していなかったか」「2つの方法は何が違うのか、といった比較する視点で見ていたか」ということです。

【例えば、商品100円を掛で仕入れたという取引があったら・・・】

(三分法による仕訳)				(分記法による仕訳)			
(借方)	仕 入100	(貸方)	買掛金100	(借方)	商 品100	(貸方)	買掛金100

もしかしら、「三分法では、借方に仕入と仕訳をして・・・、分記法では借方に商品と仕訳をする」といった感じで仕訳を覚えていなかったでしょうか。そして、問題集や答練を何度も繰り返し練習して、次第に仕訳を覚えていき、試験に臨んでいなかったでしょうか。そのような学習方法(反復とノート取り)が通用するのは2級までであり、それよりも上級の試験では通用しません。なぜなら、上級の試験では学習する仕訳の数は膨大であり、内容も複雑になってくるからです。

三分法では、商品の仕入を「費用の発生」と捉えて「借方に仕入」と仕訳をしているのに対し、分記法では商品の仕入を「資産の増加」と捉えて「借方に商品」と仕訳をします。両方法にはこのような考え方の違いがあります。

では、なぜ、このような違いが出るのでしょうか。仕入れた商品は、簿記ではお客さんに販売されたときに財貨が消費されたとして、「費用の発生」(売上原価)と考えます。このため、商品は最終的に「費用」になることから、三分法では最初に仕入れたときから「費用の発生」と捉えて仕訳をします。

これに対して、分記法では、商品は販売されて最終的に費用になるとしても、財貨であることから「資産の増加」と考えて仕訳をします。このように簿記では1つの取引について複数の処理方法が出てくるありますが、効果的な学習のためには、それぞれを単体で覚えるのではなく、両者を比較して、共通点や相違点を探し出し、その理解のもとに覚えるといった「学習上の工夫」が必要となります。

<処理方法を比較しておさえる>

(三分法による仕訳)				(分記法による仕訳)			
(借方)	仕 入100	(貸方)	買掛金100	(借方)	商 品100	(貸方)	買掛金100

費用の発生 ← 資産の増加

商品(資産)は最終的に費用となるので、最初から費用とするのか、最初は資産と処理するのかの違い



問題を一生懸命繰り返し解いて、とにかく解法と仕訳を覚えようとしていませんか？

【例えば、消耗品100円を現金で購入したという取引があったら・・・】

(購入時に費用の発生として仕訳する方法)

(借方)	消耗品費100	(貸方)	現金100
------	---------	------	-------

(購入時に資産の増加として仕訳する方法)

(借方)	消耗品100	(貸方)	現金100
------	--------	------	-------

商品売買取引における「三分法」と「分記法」と同じ考え方で処理する取引として、「消耗品」の購入取引がありました。このときも、「消耗品の購入では、借方に消耗品費と仕訳をして・・・別の方法では借方に消耗品と仕訳をする」といった感じで仕訳を覚えていなかったでしょうか。そして、問題集などで繰り返し練習して、お終いとしていなかったでしょうか。簿記学習において知識を入れていく際には、他の論点同士との関連性についても併せて理解していくことが大切です。

商品も消耗品も「財貨」ですから「資産の勘定」に分類されるものです。ですが、販売や消費されることで両者はともに「費用」となります。よって、仕訳の方法においては同じ考え方に基づく仕訳の方法が採られるのです。そして、日頃の学習においては、このことにまで考えを及ぼせることが効果的な学習には必要なのです。

<他の論点との関連についても考える>



受験勉強には理解する・記憶する・慣れるの3つが必要



簿記1級など、難関とよばれる試験では膨大な量の知識を最終的に覚える必要があると言われます。このため、中学や高校のときの英単語を覚えるといったような学習方法をそのまま持ち込んでも、膨大な量の知識を頭にいれることができない場合があります。そこで、これらの試験勉強では、知識の入れ方に学習上の工夫が必要となります。まず、記憶をするには、理解することが必要です。大人の脳では、無意味なものは記憶しづらいからです。記憶をするには、その内容について何らかの意味付けが必要なのです。また、すべての知識が単体でバラバラの場合、思い出すという作業の時に時間がかかったり、記憶を呼び覚ますことができない場合があります。そこで、理解するだけでなく、知識を体系化し、関連づける必要があります。知識を関連づけておけば、試験で問われている部分が直接思い出せなくとも、それと関連性のある他の知識の理解から思い出すことができます。

さらに、試験では頭の中にある知識を答案用紙に反映させなければなりません。

しかし、どんなに頭の中に大量の知識が、体系化されて入っていたとしても、そのまま100点満点を取れるとは限りません。なぜなら、試験には出題形式や出題パターンといったものがあり、それに「慣れて」いないからです。

このため、問題をたくさん解き、試験に「慣れる」必要があるのです。

質問2 工業簿記についての質問です。

例えば、ボールに色を塗って、カラーボールを大量生産している工場があったとします。このような工場では、総合原価計算によって原価を計算しますが、総合原価計算では、材料費は「数量の比」で配分計算を行うのに対して、加工費は「加工換算量の比」で配分計算を行います。このように材料費と加工費では、計算方法が異なりますが、その理由を説明できますか。また、ベルトコンベアーによる流れ作業でボールに色を塗っていくとして、そのペンキ代（材料費）はどのように計算すればよいのでしょうか？

質問2について（計算方法を自分の頭で考えて理解していたか、他の計算方法にも考えを及ばせていたか）

工業簿記では、様々な計算式が出てきたかと思います。その学習においては、計算式や図解を使っての解き方を覚え、繰り返し練習することで問題が解けるようになってきますね。計算式や解き方を覚えて、その通りに計算し、問題が解けるようになるという学習方法は、2級レベルまでは通用しますが、いわゆる「反復」だけの学習では上級の試験では通用しません。なぜなら、簿記1級以上の試験になると、初めて見る初見の問題を現場で考えて解くということが要求されるからです。

【例えば、材料（ボール）2個を投入し、色を塗っていき、完成品1個と月末仕掛品（50%地点）1個が産出されたとします。・・・】
材料費は200円、加工費は150円、ペンキ代（材料費）150円とした場合、完成品と月末仕掛品の原価はいくらになるか。

仕掛品（材料費）		
投入	完成 1個	100円
200円 2個	月末 1個	100円

完成品原価 $200円 \div 2個 \times 1個 = 100円$
 月末仕掛品 $200円 \div 2個 \times 1個 = 100円$

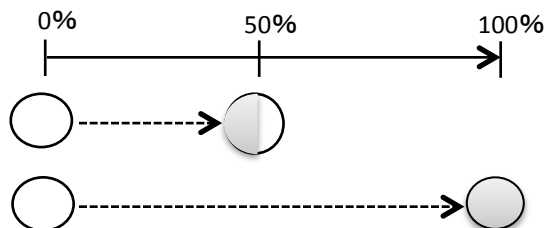
仕掛品（加工費）		
投入	完成 1個	100円
150円 1.5個	月末 0.5個	50円

完成品原価 $150円 \div 1.5個 \times 1個 = 100円$
 月末仕掛品 $150円 \div 1.5個 \times 0.5個 = 50円$

総合原価計算の問題を解く時には、上記のようなBOXを書いて、金額を計算していくかと思います。このとき、材料費200円は「数量の比」で配分計算し、加工費150円は「加工換算量の比」で配分計算します。計算自体は、やり方を覚えれば答えを出せますが、「どうしてこのような計算をするのか」ということについても考えを及ばせていたかどうか、ということが「効果的な学習」につながります。

つまり、計算方法を「反復練習」するだけで終止せず、以下のように図解を書くなりして、「計算の仕組み」についても理解していくことが大切なのです。

＜計算の意味を図解を書いて理解する＞



図を見ていただくと、材料（ボール）は始点で投入されているため、50%地点でも100%地点でも、それぞれ1個です。よって、材料費200円（2個）は数量で配分計算します。

これに対して、加工費は100%地点にある完成品と50%地点にある月末仕掛品では、加工の具合が異なることが図解で分かります。完成品はすべて色が塗られているのに対して、月末仕掛品は半分しか色が塗られていないわけですから、数量の比で配分ではなく、加工のかかり具合を加味した、加工換算量で配分をします。

では、ペンキ代（材料費）はどのように計算すればよいのでしょうか。簿記2級では、材料費は「数量の比」で配分し、加工費は「加工換算量の比」で配分と習いました。この計算の意味を理解せず、単に覚えるだけの学習では、ペンキ代150円についても「数量の比」で配分計算してしまう誤りを犯してしまいます。

ですが、上記の図解をみていただくと、月末仕掛品は半分しか色を塗っていないのに対し、完成品はすべて色を塗っています。ということは、ペンキ代（材料費）については「加工換算量の比」で配分計算すべきということが分かります。このように、簿記1級以上の試験になると、学習した知識を応用して、初見の問題に対処する能力についても問われます。このため、計算方法を理解するとともに、「それを他に応用させる」という思考が必要となります。

仕掛品（ペンキ代＝材料費）		
投入	完成 1個	100円
150円 1.5個	月末 0.5個	50円

原価の配分計算の考え方を自分で考えて、理解しておくこと本問のような応用問題にも対処できます。また、学習にあたっては、「このような場合は計算はどうなるのだろう？」といった思考を進めていくということが重要です。

第2：栄養・睡眠・疲労などが学習に及ぼす影響についても理解する。

国家試験の学習は1年以上に及びます。このため、学習そのものだけでなく、私生活の有り様や人間関係等についても、その合否に重要な影響を及ぼします。よって、生活リズムや休息なども含めて、総合的な勝負となることを認識し、その対策をしっかりと立てるようにして下さい。

【仮眠をとることが記憶にとって望ましいことが分かったそうです】

運動・勉強伸びるコツは・・・すかさず仮眠～日経新聞からの記事抜粋

「スポーツや勉強ができるようになりたければ、仮眠をとろう。最近の研究で、こんな仮眠の利点がわかってきた。睡眠中に脳が活発に働き、覚えた体の動かし方や知識が記憶として固定かされやすいという。通常の睡眠に加え、仮眠もとることを専門家は提案する」

第3：テキストの読み方、ノートの取り方、記憶の仕方、忘却の防ぎ方、思考の進め方などについて科学的な根拠にもとづく上手な方法を取り入れる。

簿記3級や2級の学習では、テキストを一行目から一生懸命に読み、問題集を繰り返し解くという学習方法に終始していませんか？テキストや問題集を漫然と解くだけでは、税理士や公認会計士試験といった難関試験に短期で合格するのは難しいものとなります。テキストにおいても、一行目から一生懸命に読むだけでなく、効果的な読み方というものが存在します。以下にテキストの効果的な読み方や記憶の方法をご紹介します。

【テキストの読み方における効果的な方法】

■SQ3R法（ピenson）

教科書などを読んで、その内容を理解し、記憶するための効果的な方法として提唱したものであり、以下の5段階からなります。

(1)概観する (Survey)

章見出し等を見て「この章は何について書いてあるか」を知る。

(2)設問する (Question)

各見出しを質問のかたちに置き換える。

(3)読む (Read)

前述の質問に答えるつもりで読む。（積極的に読むことになる）

(4)復唱する (Recite)

書物から目を離し、質問に自分の言葉で答える。（または再読する）

(5)復習する (Review)

要点や相互関係等まとめたノートを重点的に復習する。

【記憶の方法】

記憶法は、人それぞれのやり方があるかと思います。特にないという方は、反復だけの記憶方法に終始せず、記憶の性質も考慮にいれた方法を取り入れてみるとよいでしょう。

エドガー・デール「学習の逆三角形」

2週間後に覚えている割合		かわり方
言って、やったことの90%	実際に体験する	能動的
	実体験をまねてやってみる	
	体験を劇化してやってみる	
言ったことの70%	そのことについて話しをする	受動的
	討論に参加する	
	実際の現場を見学する	
聞いて、見たことの50%	実演を見る	受動的
	展示を見る	
	テレビ・映画を見る	
見たことの30%	写真を見る	受動的
聞いたことの20%	音楽を聞く	
読んだことの10%	読む	

エドガー・デールの検証によると、五感を使った方が記憶に残りやすいそうです。反対に、テキストを一生懸命繰り返し読んでも、記憶としては残りづらいことが分かります。五感を使って、理解もでき、記憶に残る有効な方法としては、「**自分が自分に説明する**」という方法があります。ご自分が税理士や会計士になったとして、会計処理方法などについて、クライアントに説明していることをイメージしながら学習するのです。このとき、ノートに図や文字を書きながら自分に説明すると、五感を使うことになるため、記憶にも残りやすくなります。また、説明できなければ理解できていないということも分かりますので、自分自身の理解度を確かめることにも役立ちます。この方法はオススメですので、ぜひ、取り入れてみて下さい。

【脳科学に基づく記憶の方法】

さらに脳科学の分野から、脳科学者の茂木健一氏は、記憶の方法について、以下のように述べておられます。

「ものごとを記憶する時、人間の脳は「記憶回路」というある特定の回路を使います。この記憶回路を使って記憶しようとしていなければ、紙に何度書こうが意味がないのです。では、記憶回路を使って記憶するとはどういうことか。英文を覚えるときを例にとりましょう。

まず英文を見ます。次に、それを書き写すわけですが、英文を見ながら写しては意味がありません。一度英文を見たら、そこから目を離して写すのです。これを何度も何度も繰り返します。ここでポイントになるのは、原文から目を離すということ。つまり一時的に頭の中に記憶し、それを書き写す作業にするべきなのです。原文を見ながら書き移すプロセスの中には「記憶する」という作業が抜けています。だから記憶が定着しないのです。確かに楽な作業ではありませんが、これを繰り返すことで記憶の定着は段違いによくなるはずです。」

以上のことから、仕訳などをおさえるときは、テキストから一度目を話し、答えとなる仕訳を見ないで仕訳がきれるかどうかをやってみることが記憶をするうえでは大切だとわかります。そして、単純暗記にならないように、さらに一歩進んで、テキストから目を放し、会計処理について説明できるかどうか、自分が税理士や会計士になったつもりで、自分自身に説明してみましょう。

例えば、減価償却について説明できるかどうかやってみるのです。減価償却における論点には何があったか、目的、計算方法、会計処理方法、表示方法などがありましたよね。これらのことをテキストを見ないで説明できるかどうかやってみるのです。そして、できない部分があれば、その部分の理解が不足しているか、記憶していないということになります。よってこの場合は、テキストまで戻って内容を確認するのです。この作業により、理解が深まり、記憶が定着していきます。また、このことは最近の研究で実際に効果があることが分かっています。以下、そのことに関する日経新聞の記事です。

日経新聞記事 教科書などで覚えたこと/自分でテスト成績向上？

「教科書などで学んだことをきちんと覚えたかどうか自分でテストをする作業が、他の学習方法に比べて効率的に記憶を定着させるという研究結果を、米パデュー大のチームが米科学誌サイエンス(電子版)に発表した。テストで学んだことを思い出すと、知識の構築に大きな影響を与える可能性があるという。知識を詰め込むより、脳から引き出すことの重要性を示唆する結果で、研究チームは「日常の学習に、思い出すというプロセスを盛り込むべきだ」とアドバイスする。」

「研究グループは、学生80人を4組に分け、それぞれに、科学の教科書を①1回読む ②4回繰り返し読む ③教科書を見ながら内容を図表化する、④教科書を読んだ後、本を伏せて覚えた内容を書きだし、自己テストを2回繰り返す—という作業に取り組ませた。1週間後にどの程度覚えているかを試験すると、1回だけ読んだ組の正答率は平均27%、4回繰り返しは49%、図表化は45%だったのに 対し自己テストをした組は67%と最も成績が良かった。」

このように、記憶のためには「アウトプット」を意識した学習が効果的のようです。このことは、計算科目の学習だけでなく、理論科目の学習についても同様です。特に理論科目の学習ではついついテキストに書かれてある内容を繰り返し読むことに終始しがちです。私自身も受験生時代そのような学習方法を探っていました。ですが、この方法では勉強したつもりでも、いざ、問題を解いて問われた内容のことを書こうと思っても書けません。なぜなら、繰り返し読むだけでは、内容が頭に入っていないことが多いからです。このため、多少面倒でも、テキストを読んだときは、一度、目を離し、覚えているかどうかを確認するという作業をやることが重要です。

【ノートの取り方】

ノートを取る際に、「先生が書いた板書を書き写し、それを後で読み直してみたい」としていませんか？

簿記1級や税理士試験などの短期合格者はノートの取り方にも効果的な方法を取り入れています。

ここで、NHK「テストの花道」で紹介された、効果的なノートを取るためのコツと、「今でしょ!」で話題の「東進ハイスクール」、「頭がいい人はなぜ方眼ノートを使うのか?」で紹介されているノートの取り方についてみてみたいと思います。

参考①【ノートは成績を上げるカギ】～NHK番組「テストの花道」より

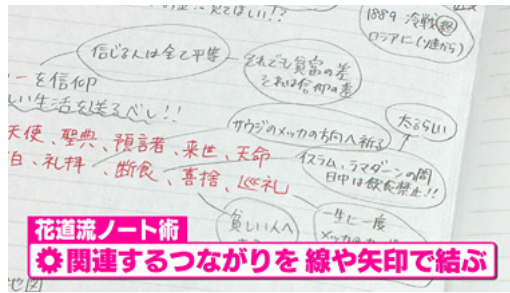
「学校の成績を上げる！ そのためには、まず何を変えればいいのか？
番組独自で50人を超える、現役の学校の先生にアンケートを取ったところ、全員の先生が成績を上げるカギとして「ノートを取り方」を挙げた。

しかし板書を写しているだけの脳はあまり働いていないという。脳の「ワーキングメモリー」は短期的な記憶を保持して、作業をするのに一番かかわる場所。長い記憶にも関わってくることが知られている。ここを働かせることは、記憶にも残りやすくなるのだが、諏訪東京理科大学篠原菊紀教授によると、板書を写しているだけでは、手は動かしているけど、頭はあまり使っていない状態だという。

記憶に残るノートづくりをするためには、「花道流ノート術」で紹介したように先生の話をつとんどメモをしながら、関連する情報を線や矢印で結んでいくことが大切だ。

～ノート作りのコツ～

見返ただけで、授業の内容がすぐに思い出せるようなノートは成績を伸ばす第一歩になるはずだ。
コツさえつかめば、キミもできるヤツに大変身できる！



ノートの機能を知る

そもそも授業で使うノートは、「先生の板書を写すだけのモノ」と考えていないか？ 実はノートにはさまざまな機能が隠れている。

＜ノート機能＞

- ・文字だけでなく記号や図・絵などが描ける・疑問点や解決方法をメモすることができる
- ・あとでやるべきことがメモできる・自分の考えや感想を自由に書くことができる
- ・見直すと自分の考え方やミスが確認できる

こんなにあるノートの機能、君はフルに活用していないのでは？
これらの機能を意識して、ノートを取ろう！

授業は「ストーリー」と捉える

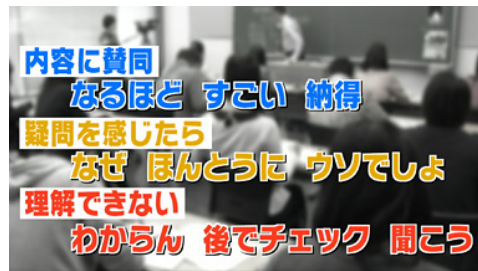
授業内容は「ストーリー」と考えてみよう。授業を図式化すると下図のようになる。

最初は「導入」。次に「展開」、最後に「終末」。
板書は、そのストーリーのごく一部を書き出したもの。
歴史の授業で、年号や出来事だけ板書されていても、それが
どういう経緯で起きたのか、どんな意味を持つのかは先生の
言葉で語られる。板書と板書の間にあった話をノートに残さ
ないとストーリーは完成しない。つまり板書だけでは、後で
いくら見直しても、授業内容を再現できないということだ。



ノートに自分の感情や疑問を書きこむ

内容に賛同→「なるほど、すごい、納得！」など
 内容に疑問を感じた→「なぜ？、ほんとに？、ウソでしょ！」など
 内容が理解できない→「わからない！、後でチェック、」など
 自分なりの言葉なら、何でもOK！
 自分の感情を書き込むことで脳の「ワーキングメモリー」も働き、
 授業を思い出しやすくなる。
 授業が終わったら、まとめを自分の言葉で書くのも忘れずに。
 これでノートを見返した時に、授業内容がより思い出しやすくなるぞ。



ノートまとめのポイント

今回は、ある生徒さんが書いた世界史のノートを紹介したいと思います。

わかりやすいノートですね。

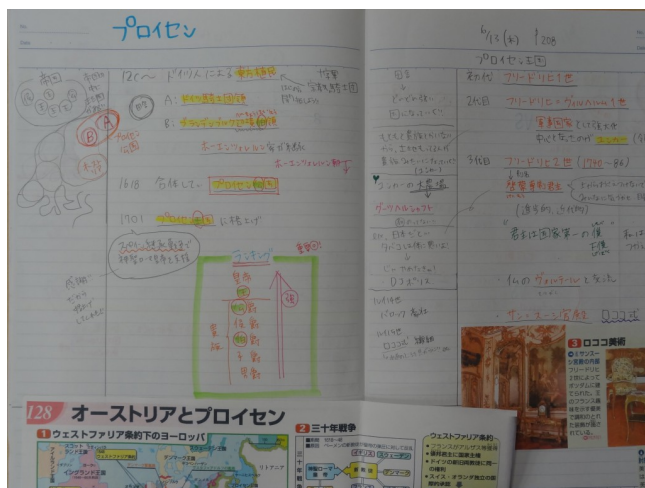
このノートの一番のポイントは「流れ」をきちんと追って書いているところです。

時系列の流れ（〇〇がおきて、その後××がおきた）
や、因果関係の流れ（〇〇があったから、××がおきた）
こうすることで、知識を覚えやすくなります。

本人も「ノートを作っている最中に大半は理解してしまっている」と言っていました。矢印や吹き出しをノートの中に入れると簡単に流れを整理できますね。

また、ノートを作るタイミングも重要。
みなさんは「ノートを作る」というと、「授業後に教科書や資料集を読み漁ったうえで、30分くらいかけてわかりやすいきれいなノートをまとめる」とか考えたりしませんか？

この生徒の場合、授業中、先生の話が途切れた時間を狙って数分で一気に書き上げるそうです。そのために、先生の話を書くときは集中して聞き、重要そうな語句を判断したり、流れを頭の中で整理しているそうです。さらに、手書きだと時間がかかりそうな図表は資料のコピーを後で貼り付けているそうです。時間の使い方も上手！皆さんもノートの取り方を工夫すると、勉強の効率は一気にアップしますよ！



「ノートの取り方」により、学習効果、仕事の効率などが高まることを提唱する高橋氏は、著書において次のこと述べています。

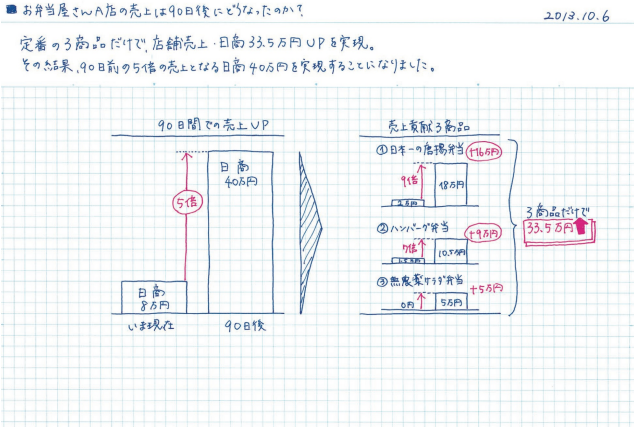
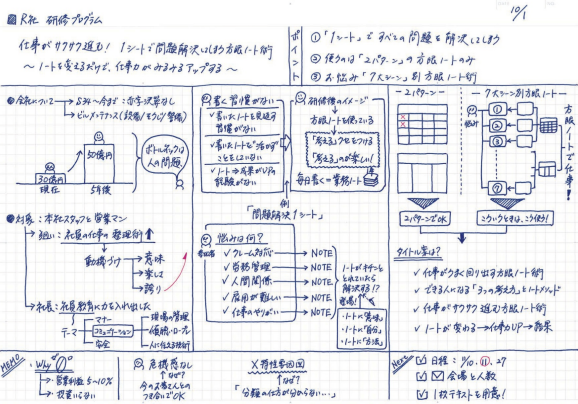
もし、あなたが勉強が苦手だとしたら、それはあなたの担任の先生が「ノートの取り方」を教えてくれなかったからです。
もしあなたが一生懸命努力しているのに、記憶術・速読術・ロジカルシンキングなどを学んでいるのに、仕事での成果がいまひとつと感じているとしたら、それはあなたの「能力」の問題ではなく「原因はノート」にあったのかもしれない』

いかがでしょうか？ わたくし自身は、「うっ」と胸に突き刺さるものを感じました。
もし、以下のようなことについて、思い当たることがあれば、不合理な方法で学習している可能性があります。

- ① ノートを見返しても、その内容を再現できない
- ② ノートにあれもこれも書き込んであり、見づらい
- ③ 文字ばかりで余白のないギョウギョウ詰めノート
- ④ 学習が進むにつれ、ノートばかりがどんどん増えてい

上記の4つに1つでも思い当たることがあるようでしたら、早速、効果的な「ノートの取り方」(テキストに書き込む派の方は書き込み方)を身につける努力をしてください。なお、同書にはこの「ノートの取り方」について次のようなコメントが書かれてあります。

『学校でも会社でも教えてくれない大事なこと
あなたはこれまでノートの使い方を教えてもらったことがありますか？
じつは99%の人が指導をしてもらったことがないのに対して、東大合格生、学校や予備校の先生、なかには父親から「ノートの使い方を教えてもらったことがある」という人もいます。
頭がいい人、勉強や仕事ができる人は、それまでのどこかの段階で「能力にフタをするノート」を卒業し、「頭がよくなるノート」へと切り換えた人だったのです。』



いかがでしょうか？「ノートは単に授業の板書を写すもの」ではなく、その取り方、利用の仕方によって強力な武器になることがお分かりいただけかと思います。

なお、資格試験や国家試験で合格点を取るためには、試験範囲の内容を理解し、記憶する必要があります。このためには、どうすれば内容を記憶できるのか、これがそもそもの「ノートを取ることの意義」です。そして、記憶のためには「①理解する ②反復する ③アウトプットする ④忘却したときのためのカギを用意する」ということが必要であり、最終的にはノートの役割は以下のようなものになります。

- 第1: 講義内容の記録(重要ポイントのメモ、学習メモ)→後で復習するときの理解を促す
- 第2: 理解をするための補助(流れ、図解や要約、作っている最中に理解する)
- 第3: 反復し、アウトプットするための道具(質問を作る、時間短縮につなげる、集中する対象を絞る)
- 第4: 忘却したときのカギを作る(図解、絵、色、シンクリファレンス)

ノートを取るとき、その意義を決して忘れないようにしましょう。
なぜなら、このことを忘れてノートを取ると、「ノートを作ることが仕事」「ノートを取って勉強した気になる」ということに陥る可能性があるからです。この場合、「ノートを綺麗に取ったが、試験で内容が思い出せない」なんて笑えない笑い話になる恐れがあるので注意しましょう。よって、ノートを作る際には必ず、上記の4つの条件を満たしているかどうかチェックするとよいでしょう。

では、簿記の学習では具体的にどのようにノートを取ればいいのか？
その参考例として、ある受験生のノートをちょいと覗いてみましょう。

[illegible]

このノートは、貸倒引当金のまとめノートから派生してきおり、貸倒引当金の論点のうち、さらにCF見積法について詳しくみているという意味です。このことにより、ノートの知識が横の繋がりでなく「深さ」を持ちます。

2. $\text{Cap} \frac{1}{2} \times 70$ - 見積法に5% (利率法) 減損処理

会計理論上
2つの法

- ① 残高調整法 (制約) ... 期首、残高を調整することにより減損を把握する方法
- ② 利率調整法 ... 期首、利率を既定率に引き上げ減損を把握する方法

① 残高調整法 ... 特徴

当初、約定利率の不利な状況に不利な損失発生を以て考える。

② 利率調整法 ... 特徴

当初、約定利率の不利な状況に不利な

↓

期首、利率を調整することにより可能額を計算

↓

依然利回り CEF 5% 帳簿価額に引いた3% 減損認識 (5%)

この場合、それぞれ単体で押さえるのではなく、「比較」するような形で理解し、ノートをまとめている点に着目してください。このことにより、理解が増しますし、一方の記憶が忘却しても、もう一方の記憶から呼び覚ますことができます。(意義の第2要件、第4要件)

自分で設問を作って、理論的な内容を計算により、より正確に理解をしています。また、問題形式により、アウトプットの復習として利用します。この方法は特に工業簿記・原価計算の分野では有効です。(意義の第3要件)

この解説を作っている最中に理解できますし、解説を作
れなければ理解していないということが分かります。
また、アウトプットの復習のときに、自分で作った解説を読
みますので、理解しやすく、復習時間の短縮にもつながり
ます。(意義の第2要件、第3要件)

これと併せて、左記ノートには記入がありませんが、「自分なりの一言コメント」を入れたり、「要約」を入れたり、「色」の挿入や、「自分なりのポイント」を書き込むことで自分に一番合った、世界に一つだけのオリジナルノートができていきます。これができれば「復習は短時間」で済みます。これはノートが持つ大きな効用です。

このようなノートが出来上がれば、もう怖いものなしですね？！このノートのにより、1ヶ月後に再び復習しても、短時間でノート作成時の理解まで戻すことができます。ノートの作成は強力な記憶保持のツールなのです。

【忘却の防ぎ方】

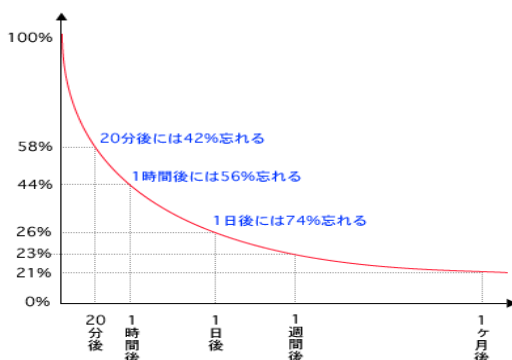
認知心理学において、「エビングハウスの忘却曲線」というものがあります。これは、その日に覚えた内容は「20分後には、42%を忘却し、58%は覚えており、1時間後には、56%を忘却し、44%は覚えており、1日後には、74%を忘却し、26%は覚えていた。」とする、記憶の忘却を表す曲線のことです。この忘却曲線をもとに考えると、復習は学習後なるべく早い時間に行かせたほうが効果が高いようです。また復習の回数は1回だけでなく、複数回行ったほうがより効果があると考えられます。また、学校で学習する前に予習を行えば、学校での学習そのものが復習の意味を持つことになるため、これも学習内容の定着には、効果が高いという意見もあるようです。いずれにせよ、そのままにしておくと、どんどん忘却していくため、タイミングを見計らって、復習をすることが忘却を防ぐうえでは、大切だということが分かります。この部分は、後で見ていく「記録を取ることの重要性」とも関わってきます。

また、エビングハウスの検証では、無意味な数字や記号などを覚えるという実験でした。よって、忘却曲線は「理解の伴わない記憶はどんどん忘れる」ということも意味します。したがって、忘却を防ぐためには、「理解する」こと、「何かと関連させて記憶していく」ことが大事だということが分かります。

右グラフをご覧ください。
記憶は1日経てば、1ヶ月後の記憶とさほど変わりません。よって、記憶にとって復習はその日のうちにやることが重要だと分かります。



エビングハウスの忘却曲線



【思考の進め方】

講義を聴いたり、テキストを読んで、「ふ〜ん」で終わらせてはいけません。テキストや講義で学習しているとき、もしくはその後の復習では、①共通の属性に基づいて、内容を並び替えたり、再分類してみる「分類」、②理解するためのルールを意識して適用する「演繹」、③自分でたやすく再生しやすいものに視覚化する「イメージ化」、④新しい項目の意味を推測したり、結果を予測したりする「推論」などのように、思考を巡らせてみることも重要です。

「??」ちよつ分かりづらいですね。では、例えば算数の科目で「分数」の勉強をしているとしましょう。わたくしも含め、普通、小学校からの勉強方法としては「一生懸命に繰り返し、反復練習する」という学習方法が一般的ですよね。しかし、大人の、それも難関試験と呼ばれる試験の勉強では、「反復」のみの学習方法では歯が立たず、「自分なりに考えてみる」ということが記憶を残すうえで重要なんです。

思考の進め方について

$$\frac{1}{5} + \frac{2}{5} = ?$$



そんな簡単ですよ〜
10分の3です。
えっ?! 違う?!

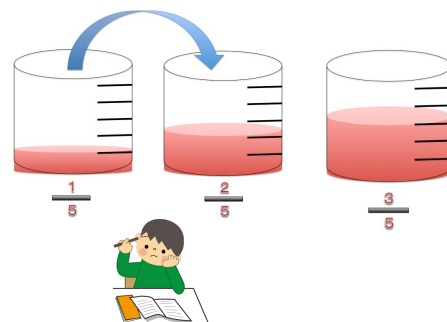
一生懸命に反復学習のみを繰り返していませんか？



計算ドリル

$$\begin{aligned}\frac{1}{2} + \frac{1}{2} &= 1 \quad \bigcirc \\ \frac{1}{3} + \frac{1}{3} &= \frac{2}{3} \quad \bigcirc \\ \frac{1}{4} + \frac{1}{2} &= \frac{2}{6} \quad \times\end{aligned}$$

ドリルを解きまくって練習。
計算の意味を自分なりに考えて
みるということをまったくして
いない。



自分なりに「ビーカー」をメー
ジし、分数の足し算の意味につ
いて考えてみることで、本当に
理解できる。

【テストを失敗させる大きな要因について】～流暢性の幻想

「テストを失敗させる大きな要因」だなんて、なんか不吉な言葉ですよ。でも、試験の勉強をする者全員がこのことについて、目を背けず、真正面から見据えなければならないのです。

このことを理解していただくべく、わたくし自身が経験した「惨事」(珍事?)をお話ししましょう。

わたくしは公認会計士試験の受験勉強してまして、その受験勉強中において、どれくらい失敗をしでかしたことがあります…。

簿記の答練を受講した時のことでした。定期的に行われる総合問題答練でした。はじめて受講するということもあり、わたくしは気合い十分、準備万端で臨んだのです。

問題を見たときに、「あ～よかった」それがわたくしの内心でした。事前に勉強していた内容が出題されていたのです。しかも、何回も解いた問題と似たような問題も出題されていました。「これならイケル！」そう確信したのです。ところが、わたくしの点数は50点後半で、受講者数の平均点くらいだったのです。

「……。」その結果を見たときはショックでした。何故なら、ちゃんと勉強して臨んだからです。これはいったい誰のせい？教材が悪いから？先生が良くないから？……。いや、もちろん！わたくし自身のせいです。つまり、学習した題材については分かっている、内容にが頭に入っていなかったのです。

そう、試験で正答を得るだけの「理解」と「記憶」に至っていなかったのです…。わたくしは「試験を受けるのが下手な生徒」だったとこのこと分かりました。そして、わたくしは自分自身を責めました。「なんて自分は頭が悪いんだ」と。

しかし、その後、自分を責めるのを止めました。なぜなら、真の原因が分かったからです。それは、「自分の理解の深さに対する判断が間違っていた」ということだったのです。つまり、心理学者が「流暢性」と呼ぶものに引かかっていたのです。

【流暢性の幻想が認識を誤らせ、テストを失敗させる】

「流暢性？」はじめて聞く言葉かと思います。流暢性とは、情報を適切に素早く処理し出力する能力のことです。先生が話した内容のこと、テキストで読んだことなどがその場ですぐに思い出せると、翌日や翌々日になっても思い出せると信じてしまう現象のことをいいます。

この流暢性が招く幻想は非常に強力です。なぜなら、「分かったつもり病」を招いてしまうからです。

分かりやすい講義を聞く、テキストにマーカーで線を引く、問題を繰り返し解く、先生が配るレジュメに目を通す、自分の板書ノートを見直す、

これらは、「流暢性による幻想を生み出す学習テクニック」といえるもののなのです。

流暢性は自動的に「もう自分は分かった」という錯覚を引越します。

無意識にそのような錯覚が生まれ、復習や練習の必要性を正しく判断できなくなってしまうのです。

「脳が認める勉強法」という本によれば、

『ウィリアムカレッジの心理学者ネイト・コーネルは次のように言っています。』



流暢性がその判断を惑わせるのだ。』

頭が悪いせいでもない、遺伝子が足りないせいでもない、不公平や運が悪いということでもない、元凶はこの「流暢性」にあったのです。では、具体的にはどのように学習すればいいのでしょうか？ここで最大最強の方法をご紹介します。う！！

「本の一節を暗記したいなら、20回読むよりも、暗唱を試みて思い出せないときに本を開くということを織り交ぜながら10回読む方がいい」



フランス・ベーコン



「記憶の奇妙な点で気になることが一つある。それは、受動的に繰り返されたことよりも、能動的に繰り返したことのほうが強く脳に刻まれるという点だ。

たとえば、何かを暗記しようとほぼ覚えたと思ったとき、時間を置いてから記憶をたどって思い出すほうが、もう一度本を開くよりもいい。記憶をたどって思い出せば、次に思い出そうとしても思い出せるだろう。しかし、本を開いて覚えた内容を確認めれば、もう一度本を開かないといけなくなる可能性が高い」。

家政婦契約

夫婦関係

A家の奥様

A家の当主

関係はあったのか？

A家御曹司

A家に入出入りする謎の業者

家政婦ミナ子

自宅離れて道体で発見

【目標(ゴール)を紙に書いてみましょう】

まず目標(試験に合格する、事務所に入所するなど)を立てて、その目標を紙に書くことはモチベーションの維持において重要です。そこで、税理士や会計士になったら、どんな職場で、どんな人達と仕事して、どんな生活を送りたいのか想像し、目標を紙に書いてみましょう(ゴールを先に見据える)。

【学習計画も立ててみましょう】

さらに、本試験までに、どの科目を済ませるのか、講義の進捗を加味して大まかな目標を立ててみましょう。そして、そこから、月や週単位の計画を作ってみてもいいと思います。なお、このときに中間目標として日商簿記検定1級試験の受験や全経上級試験といった他の資格試験の受験を入れておくのも1つの手です。これらの試験は腕試しになります。また、一步進んで、テキストの目次から各項目でおさえるべき論点を列挙し、その一覧表を作り、その論点を計画表に入れていくのも1つのやり方です。

例えば、財務諸表論や財務会計論(会計士)のテキストでは、「企業会計原則」の内容を学習しますが、この内容をいきなりテキストの1ページ目から読んでいくのではなく、まず、目次や内容にざっと目を通し、おさえるべき論点にどのようなものがあるのか、数は何個かということを確認します。すると、企業会計原則の一般原則における論点では、①真实性の原則 ②単一性の原則 ③保守主義の原則 ④継続性の原則 ⑤明瞭性の原則 ⑥資本取引・損益取引区別の原則 ⑦正規の簿記の原則の7つがあることがわかります。よって、この一般原則の学習でおさえるべき論点は7つであり、この内容を1週間でマスターしようと計画を立てたとなると、1日1個の内容を学習していけばいいということになります。

もちろん、論点は膨大にありますので、すべてをこのように細かく決めないといけないということは当然ありません。最終的にはご自身のやり方、やり易い方法をとっていただくことになります。

ただ、「1週間に何個おさえるか」ということまでは決めなくとも、これから学習する内容にどのようなものがあり、大体どのくらいの論点をおさえるべきなのか(一般原則では7つの原則でした)を予め知ったうえで学習すると、学習の見通しが立てることができます。どんな論点は何個存在するのか、全く分からず、先が見えない状態で学習すると、知らないうちにストレスを感じながら学習することになります。ですが、何となくでも先を見通せた状態で学習すると、そのストレスを軽減できるのです。

さらに、一步進んで、企業会計原則の一般原則では、7つの原則がおさえるべき論点としてありました。では、この7つすべてを理解し、覚えなければいけないのでしょうか？一般原則の規定内容を一字一句暗記しなければいけないのでしょうか？それとも、単に○×問題に答えられる程度の理解でいいのでしょうか？このように、おさえるべき論点が7つ存在するということを確認しただけでは実は不十分です。なぜなら、受験する試験の形式、要求される知識レベルにより、どの範囲(深度)まで学習しなければならないのかが異なるからです。よって、できる限り早期に過去問を購入し、自分が学習している内容が実際の本試験でどのような形で出題されているのか、その出題頻度や出題形式、難易度も併せて確認するようにしましょう。そして、過去問で確認した内容は、ご自身の学習計画や学習方法に反映させるようにするとよいでしょう。ぜひ、今回の例で挙げた「企業会計原則の一般原則」が過去の本試験でどのように出題されているのか、その頻度や出題形式、難易度を確認し、自分なりに研究しておいて下さい。

【スタートからゴールまでの見通しを立てる】



- ・現時点から試験までの期間はどれくらいあるのか
 - ・テキストの目次などを使って、試験までに何を学習しなければいけないのか
 - ・学習しなければいけない論点は何個あるのか
 - ・ゴールに辿り着くために、毎月や毎週どのくらい学習しなければならないのか
- 上記のことが「大まか」にでも把握できれば、学習のストレスを減らすことができます。

【記録をとっておくこの重要性】

学習計画の効用として、これからどこに進むのか、その「道しるべ」になるとともに、ゴールへの道を外れていないか、その軌道修正を図る道具として利用できることが挙げられます。そして、軌道修正を図るためには学習計画と併せて、学習記録をとっておくことが重要です。自己の学習が日頃、どのように進んでいるのか、1日や1週間の学習記録を一度取っておくことも大事です。1週間の学習した科目や時間(生活時間なども)記録しておく、自己の学習傾向、時間の使い方などの傾向を把握できますので、効果的な学習時間や生活時間の使い方などの軌道修正を図ることが可能となります。

ちなみに、わたくしが受験生時代は以下のようにテキストの例題や問題集、答練の余白に解いた日付と理解度(3段階)をつけるようにしていました。さらに、ミス対策のため、ミスによる失点をした理由についても併せて記録していました。これらの記録をとっておくと、「学習論点に偏りがいないか」「ミスしている傾向」といったことを知ることができます。苦手な論点は後回ししがちですので、学習論点に偏りがでることがあります。また、ミスによる失点は「あ～ミスしちゃった。次は気をつけよう」でおしまいとしがちです。

ですが、難関資格試験に短期合格を果たすには、これらのことには、しっかりと対応しなければいけません。

参考【わたくしが受験生時代の学習記録法】

※1

📖基本例題3-2📖 消費単価計算 (評価方法) 11/20①				
次の商品売買に関する資料に基づき、それぞれの評価方法により 11/21②				
売上原価および商品の次期繰越価額を計算しなさい。 11/23③				
〔資料〕				
(1) 期首棚卸高	100個	@ 1,000円	100,000円	※2 電卓だけで 計算している ため、商品 の受入と 払出の数量 がごっちゃ になっている。
(2) 仕 入	100個	@ 1,200円	120,000円	
(3) 売 上	150個			
(4) 仕 入	100個	@ 1,400円	140,000円	
(5) 売 上	80個			

参考【他の受験生の学習記録法】

論点	日付と理解度		
基本例題3-1 数量計算	11/18 ①	11/19 ③	
基本例題3-2 消費単価計算	11/20 ①	11/21 ②	11/23 ③
基本例題3-3 期末商品の評価	11/23 ③		

※一覧表にしておくと、おさえるべき論点と学習の進み具合、自分の理解度を外観できます。また、何より自分が学習すべき範囲が一目で分かりますので、集中する対象が明確になるという利点があります。

※1：分かっていない① まあまあ② よく分かった③
※2：ミスした原因をメモ書きしています。これによりミスの傾向を知ることができ、その傾向に合わせた対策を立てることができます (例えばBOXを書くなど)。

また、「学習計画」と「日々の学習記録」を併用することで、自分の現時点における位置を知ることができます。受験生に対するアンケートでも、「学習上に不安がある」と答えている方が多くいらっしゃいますが、その原因の1つが、現時点の立ち位置とゴールまでの距離が見えていないことが挙げられます。このような不安を解消し、モチベーションを維持するためにも、自分自身のやっていることが目に見え、ゴールまで着実に進んでいることが実感できるようにしておくことが大切です。

＜学習しなければならない論点表＞

論点	日付と理解度		
(1)商品売買 スタート	1/1 ①	1/3 ③	
(2)有価証券	2/2 ①		
(3)減価償却 ゴール！			

例えば、学習計画を立てるときに、試験までは3ヶ月とし、学習しなければならない論点をテキストの目次から数えて3個だとします。すると、試験に間に合うためには1ヶ月につき1個の論点を学習しなければならないことが分かります。

つぎに、日々の学習を左記のような表を作り、そこに記録していくとどうでしょうか。「ゴールまでの見通し」が立った状態で、学習するごとに着実にゴールに向かっていくことが実感できます。記録をしていくと、このような「学習の見える化」が可能となるわけです。

第7：予習・復習の仕方、授業の上手な受け方を身につける。

予習は基本的には必要ないと言われますが、講義を受ける直前に、講義で習う学習内容の部分を「目次」で確認し、全体的な位置付け、学習範囲に含まれる論点、といったことをざっと確認しておくことも有効です。そうすれば、講師が話している内容のことが追いやすくなります。また、一回転目の講義では、他の知識との関連性から一度聞いただけでは理解できない部分があります。このため、一回転目では概要や全体像の把握に努め、あまり細かい部分は気にせず、とりあえずは先に進むということも大切です。

さらに、復習では無目的、機械的にテキストを読んだり、問題集を解いたりするのではなく、「このことにより何を成し遂げたいのか」という目的を立てて、復習するとよいでしょう。例えば、問題集であれば、1回目は理解し、記憶しているかどうかを確かめるために解く、2回目は記憶するために解く、3回目は効率的な解き方を研究するために解く、といった具合です。学習上、もっとも危険な行為は「惰性で問題を解くこと」です。また、記憶の定着を図る復習方法として、1回目の講義が終わったら、その復習を行い、2回目が終わったら、まず1回目の講義内容を復習し、それから2回目の講義内容を復習するとよいとのことです。このようにすることで、単発の知識ではなく、流れを意識した記憶になります。復習は誰でもしますが、そのやり方にちょっとした工夫を加えるかどうかで、1年後、2年後の実力に大きな差となって表れるのです。

【復習しやすいツールを作る】

税理士や公認会計士講座の受講生の方によく相談を受けるのが「復習の時間がない…」ということです。講義だけでも3時間かかりますので、その内容を復習するだけでも1時間から3時間はかかります。さらに1回だけの復習では足りませんので、1つの論点を復習するにはトータルで結構な時間を費やすことになります。しかし、時間は24時間しかなく、その中で学習に割ける時間となるとさらに限られたものになります。このために、復習においても、効率的で効果的な復習ができるような「ツール」を作るのも1つの手です。例えば、テキストの例題や問題集の問題では、解けた問題を何回も解くのは生産的ではなく、非効率的です。そこで、できなかった問題、不安のある問題をピックアップし、それらの問題集を縮小コピーして1つのファイルに集約するという方法があります。これにより、自分の弱点ノートができあがりますので、毎日、朝一番に弱点ノートの問題を解くとか、隙間時間を使って解く、夜寝る前に1・2問解いてから寝る、などの復習方法をとることができます。このツールにより復習する内容は自分の弱点ばかりですので、効率的で効果的な復習が可能となるわけです。復習しやすいツールの作り方などは人それぞれでしょうから、いろいろと試行錯誤してみて、自分自身にあった方法を探すようにして下さい。（※ノートの作り方を参照）

第8：各教科の特徴とその勉強方法、不得意科目の勉強法を身につける。

【各教科の特徴とその勉強方法について】

国語には国語の特徴が、英語には英語の特徴があります。つまり、学習する科目によって特徴があるため、その「科目の特徴」を理解し、特徴に合った勉強方法を取らなければなりません。また、これに「試験の特徴」という点も併せて考慮しなければなりません。

例えば、簿記の試験では、①読解力②仕訳力③集計力が必要になります。①読解力は小学校からの教育ですので、ここでは割愛します。②仕訳力については、取引の性質から仕訳を理解し、記憶し、アウトプットできるように練習する必要があります。これに対し、③集計力は、仕訳の金額を書き写して集計していくだけですので、繰り返しによる反復練習、集中力を養う練習、体調管理などが学習方法の特徴として挙げられるでしょう。

しかし、これに併せて、受験する試験の性質でさらに必要な能力が変わってきます。具体的には、日商簿記検定1級試験と税理士試験簿記論と公認会計士試験短答式試験(簿記)であれば、計算問題重視ですので、上記3つのことで足ります。しかし、全経上級試験、税理士試験財務諸表論、公認会計士試験論文式では、基本の仕訳から応用させたり、仕訳の考え方を説明させたりする問題も出題されるため、②仕訳力という点において、さらに論理的な思考力、推論力、組み替え力といったことも必要になります。よって、本試験の問題から、そのような特徴を知り、自己の普段の勉強に反映させていく必要があるのです。

【不得意科目の勉強方法】

不得意科目は、嫌煙しがちです。しかし、難関資格試験（特に公認会計士試験）では試験の性質上、どの科目も万遍なくある程度の点数が取れるという人が合格しやすいのです。このために、不得意科目はできる限り無くす努力が必要です。そして、不得意科目を無くす、あるいは得意科目にする1つの方法として「細分化による一点集中学習」が効果的です。

この方法は、例えば、簿記の勉強で、特殊商品売買が苦手であれば、3日～5日時間を取り、特殊商品売買の論点を集中的に行います。このとき、「特殊商品売買」とひとくりにせず、「今日は未着品売買、そのうちの手許商品区分法のその都度法をマスターしよう」、「次の日は未着品売買の手許商品区分法の一括法をマスターしよう」という感じで、学習する論点をさらに細分化し、その細分化した項目に集中して学習すると効果的です。なお、わたくしが受験生時代は以下のような感じで、論点を細分化して一点集中する方法を採っていました。

1週間時間をとって
1つの論点（細分化
した）に集中する

＜テキスト＞
特殊商品売買
未着品売買

＜問題集＞
特殊商品売買
未着品売買

＜答 練＞
特殊商品売買
未着品売買

＜過去問＞
特殊商品売買
未着品売買

さすがにここまでやれば、特殊商品売買の未着品売買について「肝」が掴めてきます。このように、苦手論点ではやることを細かく分けて、1つに集中して学習するとよいでしょう。

また、自己の実力がそこまで到達していないことによって苦手になっていることもあります。このような場合は、前の知識が曖昧であることが原因という場合がありますので、その場合は、勇気を持って「基本まで戻る」ということをやるべきです。よって、どうしても1級レベルの内容が分からない場合は、3級レベルや2級レベルまで戻って学習するようにしましょう。なお、簿記はスパイラル学習であり、上級にいつの周辺知識がないと理解できないこともあります。よって、このような場合は、とりあえずその論点は脇においておいて、先に進むということもやって下さい。わたくしが受験生時代は、分からない論点は頭が痛くなるほど考え込みました。他の資料を調べたりもしました。どんなに考えても分からないとき、その論点をとりあえず放っておいて、気分転換をしていました。それは何故かという、「知識の熟成」を待っていたのです。そして、しばらく経ち、分からなかった論点に戻ってみると「そうか！」ということが何度もありました。このように苦労して、自分で掴み取った知識こそが、本当に本試験で使える知識なんだということを手をもって知りました。

【まずは自分自身の学習方法を見直し、様々な学習方法を徐々に取り入れてみましょう】

ここまで、一般的な学習方略についてみていきました。具体的な方法については短期合格のための他のテキストを読んでいただいたり、市販の学習方法を読んでいただくとよいでしょう。なお、すでに、学習方法が確立しているという方は、そのままの方法で進めていただいて構いません。「自分自身の学習スタイルを確立し、そのスタイルを貫く」ということが短期合格には不可欠ですので、自分のスタイルをすでに確立されている方は、あとはそのスタイルを見失わないようにしましょう。

ですが、例えば、簿記検定3・2級や1級試験を何度も受験しているが合格できていない、学校の答練を解いたが点数が振るわない、過去に税理士試験を受験したことがあるが、まったく歯が立たなかった、というような方は学習方法について見直す必要があると思います。そのまま同じ学習方法で勉強しても、その成果は明らかだからです。

学習方法を見直すといっても、実は簡単なことではありません。様々な方法の中から色々と試行錯誤して試してみても、自分に合った方法を探さなければならないからです。ですが、この方法がカチツとはまれば、後は楽です。そのやり方で学習を進めていけばいいだけのことです。本屋さんにも勉強法に関する本がたくさんありますので、ぜひ、それらの本も参考にしてみて、自分にあったやり方を探して下さい。自分に合ったやり方が見つかるまでは悶々とした日々を送ることになるかもしれませんが、見つかったときは、目の前が開ける感じがするかと思います。そうすれば、夢の合格までは時間の問題です。ぜひ、諦めずに頑張ってください。

目標を達成するためのコツ

目標を達成するためのコツは、ゴールから考えることです。短期で合格するためには、そのゴールに向けて一直線に進むことが最短ルートとなります。では、ゴールから考えるとは具体的にどういうことをいうのでしょうか？それは、本試験の問題を見て、その問題から自分の学習を考えるということです。本試験の問題を見れば、よく出題される論点やあまり出題されない論点が分かりますし、本試験の問題を解くのに必要な思考方法なども理解できるようになってきます。このことにより、本試験で点数を取るためのテキストの読み方や問題集の解き方ができるようになってきます。さらにゴールから考える、とっておきの方法があります。これは司法試験の受験生も行っている方法です。どういう方法かという、最初に合格体験記を書くという方法なのです。以下に、書いていただく項目を挙げておきますので、ぜひ、合格体験を書いて下さい！なお、ある金メダリストを輩出している体操学校で、目標としてメダルを取ることを紙に書いているか、という質問を生徒にしたところ、実際に書いていたのは生徒の中で1人だけでした。そして、実際にその生徒がオリンピックでメダルを取ったそうです。私も学校で税理士講座、公認会計士講座、簿記検定1級講座の受講生の方に、目標を紙に書いているか、という質問をしたところ、なんと書いているという人は1人だけでした。



【あなたの資格試験合格体験】

合格発表で合格していたことを知ったとき、どんな気持ちでした？

試験勉強はどのようにしていましたか？



苦手科目はどの科目でしたか？ また苦手科目の克服法は？



合格したいま、自分へのご褒美としてどんなことをしたいですか？

時間に制約のあるビジネスパーソンが 確実に成果を出す

M-Cass独自の学習メソッド



アクティ
ブ・ラー
ニング

アクティブ・ラーニング

座学である受動学習は非常に学習効率が悪いことから、当社ではビジネスゲームなどを使った能動学習を主体とします。



反転
授業

反転授業

基礎知識のインプットは自学習で済ませていただき教室に来ていただいたときは、発展、応用や解答戦略など実践的な内容を学習していただきます。



学習
方略

学習方略

自己流の不合理的な学習方法を科学的で戦略的な学習方法に改めていただき、確実に成果の出る学習方法をマスターしていただきます。



ビジネスゲームで経営と会計に力を

M-Cass

ビジネスゲームM-Cass企業研修セミナー のカリキュラム内容のご案内

真に成功している経営者は数字に強い！
その経営者の数字に対する強さを手にいれる！



京セラ創業者
稲盛和夫

7つの重要業績評価指標 (Key Performance Indicator)	
総資産利益率 (ROA)	経済的付加価値 (EVA)
自己資本利益率 (ROE)	フリー・キャッシュフロー (FCF)
投下 (事業) 資本利益率 (ROIC)	キャッシュ・コンバージョン・サイクル (CCC)
売上高営業利益率	



その能力は「企業会計&ファイナンス」能力

成功している経営者の経営戦略思考(3 STEP)

ビジネスを成功に導くための経営戦略を立案し、従業員に理解させ、展開する

決算書を読む 決算書を活かせる 決算書を作れる	STEP1 : BSを使い投資リターンを得る	経営分析指標 から状況を読み取り戦略立案
	STEP2 : PLを使い収益性を高める	
	STEP3 : CSを使い、キャッシュの流れを作る	

M-Cassは旧来の努力・根性・苦学のビジネス学習を
体感・快感・**楽学**へと変えるビジネス教材です。



Professional版企業研修知識習得一覧表

座学＋ワーク＋ビジネスゲームによる実践演習

【STEP1】貸借対照表編（1日コースor2日コース）

研修目標：貸借対照表で投資経営センスを身につける			STEP1：BS を使い投資リ ターンを得る <受講料> 24,000円/人 (税込価格) ※団体割あり
決算書を作れる read	①簿記原理（単式簿記）	②会計帳簿（仕訳帳・総勘定元帳）	
決算書を読める create	①貸借対照表の構成	②流動・固定分類	
決算書を活かせる use	①自己資本比率	②総資産利益率（ROA）	



【STEP2】損益計算書編①（1日コースor2日コース）

研修目標：損益計算書による収益性分析で、利益の発生元を を押さえ、付加価値を作り出す経営センスを身につける			STEP2：PL を使い収益性 を高める <受講料> 53,000円/人 (税込価格) ※団体割あり ※BS編との セットで 60,000円 (税込価格)
決算書を作れる read	①簿記原理（複式簿記）	②会計帳簿（主要簿・補助簿）	
	③発生主義会計	④決算整理（減価償却など）	
決算書を読める create	①損益計算書の構成	②各段階損益	
決算書を活かせる use	①売上高利益率	②自己資産利益率（ROE）	
	③ROAとROEの関係	④ROEを上昇させるための方策	



【STEP 3】 管理会計編（1日コースor2日コース）

研修目標：採算性や経営意思決定会計などの管理会計を身につける

決算書を作る	①直接原価計算の理解	②原価の固変動分解
決算書を読む	①直接原価計算方式P/L	②セグメント別損益計算書
決算書を活かせる	①貢献利益の算定	②損益分岐点分析
	③設備投資の意思決定	④業務執行意思決定

成功者の成功方法を学ぶよりも、**自分で実際に失敗する方が学びがデカイ！！**

ビジネスゲームM-Cassで学ぶことの効能

- ①経営数字の感覚を体感的に身につけ、ビジネスで活かせるようになる
- ②ゲームで失敗することで学べ、大失敗しない経営者になれる

座学による知識の体系的インプット

ワークによる知識のアウトプット

ビジネスゲームによる実践演習



- ・ビジネスパーソンとしての成長
- ・会社の成長
- ・大失敗しない経営者

ゲームでたくさん失敗しておく！

黒板では、経営上の失敗は体験できません！
ゲームだからこそ、何度も失敗でき、その失敗からたくさんのことが学べます！

セミナーのお申し込み・お問い合わせ先
ホームページ：<https://m-cass.co.jp>